



第56号
 (発行所)
 真宗大谷派
 松岡山 廣讚寺
 中村区城敷数町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
 (E-mail)
 matsuko@kosanji.or.jp

還浄

去る九月二十九日午前九時二十五分、病院にて前坊守は亡くなりました。長くつらい闘病生活に終止符を打ちました。

思い返せば、何年かは前任職の厚い介護のもと生活をしておりましたが、病の進行から老人介護施設へと生活する場が変わりました。それからは、徐々に歩行困難になり、転倒することが多くなりました。その時には肩を脱臼したこともありました。そしてついに一日中ベッドで寝たままの状態になりました。

二年前の年末には、腎盂炎じんうえんという病気にかかり体中に毒がまわり危篤状態になりました。それから六か月後に前任職は亡くなりました。今年に入ってからは、脱臼が再発しました。しかし体力的にも治療は無理とのことでは何とか痛みを軽減していましたが、医師の方々も思案され、横たわられるようになり、肺炎を繰り返す状態になり、何度も危篤状態になりました。いつもゼーゼーと大変苦しい表情をされていました。

しかし、九月二十九日の朝に病院から緊急電話が入り、妻がかけつけると、数分後に心肺停止となりました。



正式には「顕浄土真実教行証文類」といい、一般的には「教行信証」の名称で知られる。著者、聖人の思想が体系的に述べられている。専修寺に蔵されるこの本は、聖人の真実上人が書写されたもので、聖人在世中に書写されたことの明確な現存唯一のものでは根本聖典として最も大切に伝承してきた聖教である。

御療養中の文字様の御命
終のお知らせに接し、寂し
さに言葉もございません。

文字様とは「きりの会」

という読書会で一緒に楽
しい月日を過ごしました。

あのころの明るくお美しか

ったお姿が今も目に浮かんでまいります。やがて寺院
のお仕事がお忙しく「きりの会」をおやめになりまし
たが、時折に他のお友達と共に招きいただき、雑談
に時間を忘れ、気がついてあわてて辞退しましたこと
を懐かしく思い出します。



た。またある時、私が何げなく作
った俳句を文字様の達筆な文字で
短冊に書いてお寺の廊下に掛けて
ありました。私はあまりの恥ずか
しさに、それ以後俳句の教室へ通
うようになりました。

お病気になるれ筆記もままなら
ぬようになられ、最後の年賀状に



お別れの 読経流るる 昼ちちろ

(お葬式の日)

えみ子



おなごり勤行

「どうぞ良い俳句をお作り下さい」とゆがんだ文字でいただきました時は目頭が熱くなりました。俳句の世界は無限に奥深いことを知り始めた私は挫折しそうになっておりました。文子様のお励ましのお言葉がきっかけになり現在まで続いております。私の人生を応援してくださいました文子様ほんとうにありがとうございました。心から御礼申し上げます。



庭儀



坊守という呼び方が正しいとお聞きしました。でも親しみを込めて、あえて「おくりさま」と呼ばせてください。おくりさま、あなたの訃報ふほうに接した時、とうとうその時が来て、愛する前住職のもとへ逝かれたのですね、という思いが頭をよぎりました。長く苦しい旅を終え、浄土へと旅立たれた、あなた。眠つていらつしやるような美しいお顔を拝見しな

おくりさま

信珠



棺前勤行

がら、三十年前の光景が思い浮かびました。まだ若くお元気だったおくりさまに、まだ保育園児だった私の子供たちが夏休みに正信偈を教えていただきました。近所の子供さんたちと一緒に教わったおかげで、今でも唱えることができます。

私が稲葉地に嫁いで四十年、縁あって、お寺のすぐ近くに住まわせていただきました。それ以来、廣讚寺様がいつも傍にいて下さったような気がします。廣讚寺復興五十年という記念の年に新しい歴史が、今まさに始まるうとしています。

ごえんさま おくりさまこれからも私たちを見守っていてくださいね。

新しい廣讚寺に
真の幸せがたくさ
んおとずれますよ
うに。



葬場勤行



思い出に手を合わせて

晃雅

秋色に染まろうとしている時の中、静かに穏やかに命を閉じられたと受け止めた。お浄土の亮昭住職のもとに逝かれ、二人でにこやかに一緒にいられると思います。

長くて遠い闘病生活をされて、こんなはずではと思っておられたかも。これだけはいかようにもできずつらい道。忘れずに頭に残しておきたい。

おくり様（あ、私はやはり「お奥様」という慣れ親しんだ呼び名で思い出を語っていかれたらと思います）。

お奥様は浜松が大好きで、浜松の話になるととてもうれし



そうに話してくださいました。仲良しの従妹いとこ、そして学生のころの友達と同じ時を持ってよかったです。

亮昭住職がお奥様の介護をされるようになった。その時に私は亮昭住職とお話をしました。そんな中で聞かせてもらった話の一つ。

住職が帰ってきたら、お奥様が涙しておられた。その日、三島由紀夫が割腹自殺したことがとてもショックで心を痛められていたとのこと。潮騒や金閣寺などを読んでいられたのか。そのことに住職は大変驚いたと語られていました。文学にも書にもいそしんで達筆でいらっしやり、純な心でおられ



た。
おしゃべりが好き。笑顔でどなたさまにも差別なく「大好き」とサラリと言っておられたね、と亮昭住職に言うと、「あの人はそういう人だ。わしもだぞ」と返事が返ってきた。そんなお奥様にもちよつぱりおちやめなところがありました。料理ともいえない一コマ「チョコチョコのチョコ」と出来上がってしまいますよ。まずはカニ缶を開けてお皿に盛り付けをして出しますのよ。そんなお奥様が好きな「チョコチョコのチョコ」は今でも耳に残っています。これからは、お二人でね。

合掌

廣讚寺前坊守のご逝去によせて

伊藤和美

私は昭和四十四年に廣讚寺より僧侶になりました。その時もおくり様にやさしく仏事のこと作法のことを教わりました。

昨年亡くなられた前任職と仲むつまじく一緒に
おられることでしょう。

おくり様、わしもすぐに行きますですよ。昔のよう
にいろいろな話をしましょうね。

みごけきもみせにぬぐりくらまでい

わたしは一人でもうさかりもた

松岡亮記 文子書



廣讚寺 松岡文子前坊守 葬儀 收支決算書

収 入	
香奠 (335名)	3,051,000円
檀家親戚一般	
廣讚寺負担	4,002,535円
合 計	7,053,535円

支 出	
葬儀代	3,908,765円
法中札(30ヶ寺)	2,400,000円
院 号	30,000円
院号御染筆願	30,000円
香奠返し本代	350,000円
雑 費	334,770円
合 計	7,053,535円

以上の通り相違ありません
平成24年10月12日

会 計 秋田芳廣
会計監査 寺西年一

行事予定

十一月一日(木)二時 常任委員会

十日(土)七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十九日(月)二時～四時 学習会

二十八日(水)九時 おみがき・おとき

二十八日講・女人講

【報恩講執行】

十一月三十日(金)

九時 仏華・華束準備

一時 おつとめ・法話

十二月一日(土)

十時 おつとめ

節談説法 伊藤孝道師

おとき

二時半

稲葉地接骨院

榎木政博先生

腰痛・膝痛に効く体操

おつとめ 説教 勅使英照師

おとき

おつとめ・説教

三時 演芸会

八日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十九日(水) 二時～四時 学習会

二十八日(金) 十時 二十八日講・女人講

三十一日(月) 三時 歳末勤行

十一時半 除夜

ご案内

当山 前坊守 廣嘉院釋妙文

満中陰法要執行

日時 十一月十六日(金)

午後三時 法話 池田真師

午後四時半 満中陰法要

万障お繰り合わせの上お参り下さい